

手根管症候群により整形外科治療を受けた患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

恒心会おぐら病院整形外科では、以下の臨床研究を実施しております。

この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。

このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、日々の臨床活動で実施しております。

この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は主治医へご連絡ください。

【研究課題名】 重度手根管症候群に対する母指対立再建術の有効性と治療成績の経時的変化に関する多施設共同研究

【研究代表者】 整形外科 小倉 雅

【研究の目的】 手根管症候群は手指のしびれや筋力低下などの症状をきたします。手根管症候群の中でも重症度が高い場合には、親指を動かす筋肉の萎縮を認めます。それにより、親指が使いづらくなり、ボタンをしめるなどの細かい動きがしづらくなります。そのため重度の手根管症候群の場合には、手根管開放術と共に母指対立再建術を実施しております。本研究では、重度の手根管症候群に対する手根管開放術および母指対立再建術の有効性を、鹿児島大学病院と鹿児島赤十字病院と共に多施設で共同して調査し、経過を追うことで、手根管症候群の方々の満足度向上へ繋げていきます。

【研究の方法】

*対象となる患者さん

手根管症候群と診断された方

【個人情報の取り扱い】

名前、住所など個人が特定できる情報は、厳重に管理し個人特定ができない状態で保管します。なお、研究成果の学会発表や研修会報告の際は個人の同定ができないように配慮します。

対象となる方の選定等については恒心会おぐら病院臨床研究倫理委員会の審査を経て、その承諾事項を遵守して実行します。

【研究の参加を希望されない方へ】

この研究への参加（データ提供）を希望されない場合は、主治医へ申し出てください。